

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和7年2月6日

事業所名 しあわせ駅 山内

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	1			2階のスペースを有効活用できるように職員間でレイアウトなど協議しており、今年度までには使用できるように努めます。
	2	職員の配置数は適切である	7	2			配置基準は満たしている。だが、職員間での児童の特性や課題など支援に対する共通理解のすり合わせが必要。職員会議などで情報共有などを図っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	3	2	全体をバリアフリー化はしておらず、「段差のある社会への適応」として意識化の言葉かけを実施している。	構造化されていると認識はしている。必要性に生じれば、バリアフリー化も検討する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	5			長期のPDCAサイクルの実施はできておらず、長期目標を施設で設定しより業務改善が行なえるようにしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1			保護者さんからのご意見を積極的に取り入れ、職員間で協議し業務の改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	2		毎年ホームページで公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	5		未実施の為、今後導入を検討中。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			本社にて定期的に研修を行っている。また、市町村からの研修案内を活用し、興味がある職員や必要性のある職員から率先して研修を受講していただいております。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9			保護者さんや相談員さん関係機関との連携し、ニーズや課題などを職員一同で話し合い原案を作成し適切な支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9			統一した書類を使用している。	共有できていない職員がいる為、職員会議等で共有していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9			職員会議にて担当者を振り分けて、その中でどのような活動にしていくかを検討し実行に移すことが出来ている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	1		広く外部の方(他事業所)との交流会により活動内容を参考にしたり意見交換を図っている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9			平日にできない外出・外遊びを計画している。また、子ども会議でやりたいことを集め、子どもも含めて活動の課題を設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	1		職員が児童の特性や課題を理解し意見交換を行い情報共有し支援計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	1		朝礼や活動前に支援内容や支援の意図などを論理的に組み立て、職員間で確認を図っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9			帰りの送迎後や翌朝の朝礼でフィードバックをし、職員間で共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			記録後に職員間で共有し振り返り、追記などを行いながら検証している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9			保護者さんの新たな困り感などを相談員さんと会議を持ち、職員間で子どもの様子や進捗などを鑑みて支援の必要性を再検討を行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	9				全職員がガイドラインの総則の理解度を深め、よりよい支援が行える様に努めていく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	9			最もふさわしい者 が参画すること ができた。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	9			送迎時やLINE等 でこまめに情報 共有を行い、全 職員で把握・共 有できるように書 留をしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	2	1	7		現在該当者なし。 必要に応じて、対応していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	9			関係機関に連絡 をし情報共有を し、必要に応じて 会議をし引継ぎ を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している	1	1	7		現在該当者なし。 必要に応じて、対応していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	7	1	1	言語聴覚士に研 修をお願いし、助 言などを受けて いる。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	8	1		月に2回程度、近 くの児童館や移 動図書館を利用 し地域の人らと 交流を図っている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	2	2	5		今後検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	8	1		活動中の様子を LINEで共有。送 迎時には、申し 送りを行っている。 また、モニタリ ングでの課題な どを共有し共通 理解を図っている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	3	4	2		現在、保護者さん対象のペアレント・トレー ニングは当事業所では実施していない。 今後は、月に2回のヨガ教室やお茶会を行っ ていく。	
保護者 への説明 書	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	8	1		契約時に説明を行 い、説明の中で分 からなかった点に 関してはLINEや電 話などで改めて説 明をさせていただ いている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	9			申し送りや電話 等で保護者さん の話を聞き、必 要な、支援を行っ ている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	9				現在は、年に1回保護者交流会を行って いる。私用などで参加できていない保護者さ んもいる為、今後は保護者交流会の頻度を 高め保護者さん同士の連携を促していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	9			迅速かつ適切に 対応できる体制 を整えています。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
任 等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			お便りやLINEにて細かく発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	9			個人情報を扱うのみだけロッカーの鍵を開け、流出しないように細心の注意を払っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			十分に配慮することができた。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	1			現在、地域住民を招待するプログラムは未実施な為、今後実施方向で検討していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9			回覧板として、職員間で共有し分からない箇所に関してはその都度本社に確認し、周知を行っている。	防犯や感染などは十分に説明が出来ていないので、保護者さんが安心できるよう説明を行っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9			年2回以上は避難訓練を実施。実施後は、フィードバックをし実際に発生した際に対応できるようにしている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	1		職員会議にて研修を行う事ができた。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2	4		該当する児童なし。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	6		医師からではなく、保護者の指示のもと対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			ヒヤリハット事例集も含め報告書をファイル化している。	職員の入れ変わりもあったので、再度事例検討を行っていく。